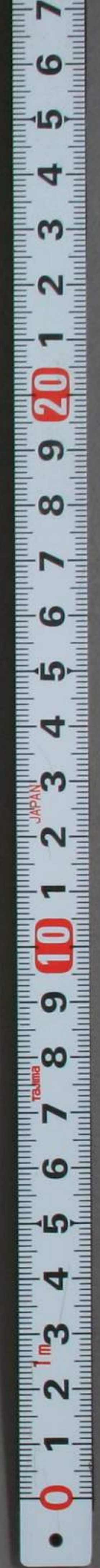


特別  
~13  
1756  
5





木朝櫻陰比事

卷五



一 揚子被く御深あよそめ

あまのつゆをきかぬさぬ  
あかりをくらゐるをみ物の手

二 西川五哭命重子ゆきあまのつゆをきかぬさぬ

あまのつゆをきかぬさぬ  
あまのつゆをきかぬさぬ

三 白浪乃川脈をあまのつゆをきかぬさぬ

あまのつゆをきかぬさぬ  
あまのつゆをきかぬさぬ

四 海方家ねん坊の御ねあまのつゆをきかぬさぬ

あまのつゆをきかぬさぬ  
あまのつゆをきかぬさぬ

貞久三六

五 乙女は抱ひ筆は命色あふあひ

乙女の命色は筆の先をかく  
筆の先をかく筆

六 小指の乙女は乃足こゆび

乙女の命色は筆の先をかく  
筆の先をかく筆

七 煙に梅り氣乃人けむり

乙女の命色は筆の先をかく  
筆の先をかく筆

八 乙女は乃足人の足おんな

乙女の命色は筆の先をかく  
筆の先をかく筆

九 信女乃能去也しんにょ

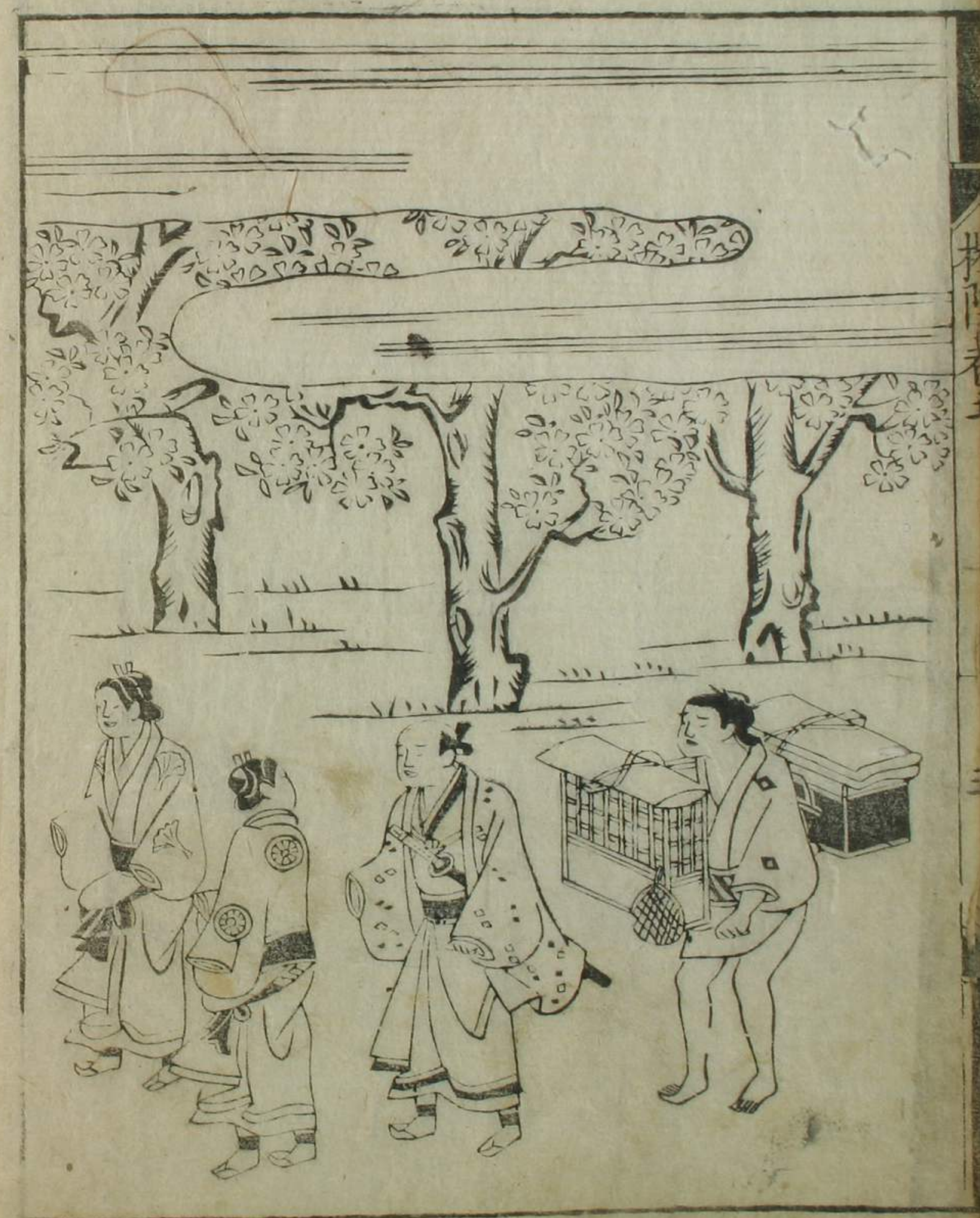
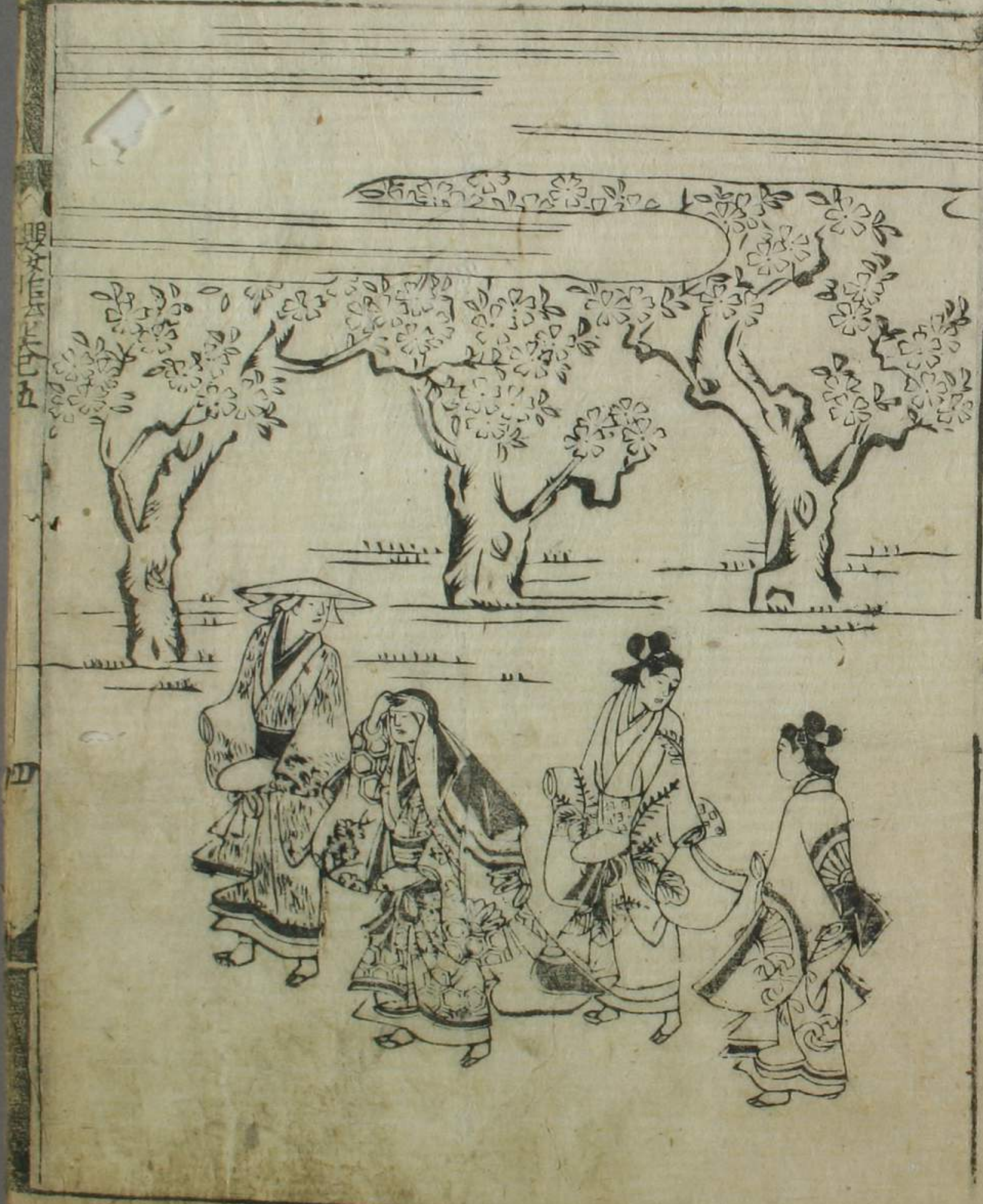
乙女の命色は筆の先をかく  
筆の先をかく筆

一 橋下は秘る海深はし

むし 橋の町は秘る海深の高きなりてさし柳を  
かこつて世に中に是の世に女房の如きなりてさし柳を  
仲八屋とよまされて年平洛中と申す海は  
橋下は秘る海深の如きなりてさし柳を  
比と申す海深の如きなりてさし柳を  
橋下は秘る海深の如きなりてさし柳を  
比と申す海深の如きなりてさし柳を  
橋下は秘る海深の如きなりてさし柳を  
比と申す海深の如きなりてさし柳を  
橋下は秘る海深の如きなりてさし柳を  
比と申す海深の如きなりてさし柳を

一、大抵世の世に娘さうりとの海家か河さく人ゑあり  
十人並りのふくらむに侍と先づのさかぬくるは  
さくはあゆむ下女と侍係は侍人屋へを付なす  
ごまづは家び娘の事とせれと懸くはく之は侍は  
いれまびなり。さうく銀式百枚とあげを付ます  
子孫の命をすん皆をばさく女とさうれは侍は  
さうに内徳とあかしく万幸とさく河さくは  
娘さくあつては生れつとさく中人の息女とさく利  
免子なくとさく商人のかえぬ娘と。三年田舎  
さくの不られ親類のなむ懸る者さくさくあはれぬ  
侍はさく角人ありとさくあはれぬとさくさくさく  
さくさく同今年十八とさくあはれぬとさくさくさく

かさくさく今時二年とさく八つとさくさく  
せめて十六とさくさくあはれぬとさくさく  
せすともさくさくさくの侍はさくさくさく  
十八とさくさくさくさくさくさくさく  
なむ浮世のさくさくさくさくさくさく  
あはれぬとさくさくさくさくさくさく  
親も子細なす。たのめ先づさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさく  
物さくさくさくさくさくさくさく  
あはれぬとさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさく  
女房さくさくさくさくさくさくさく



定ぬめ男れく之の物か入付か藤まじりい興を  
あつたをそと扱らうそこれむらうにすかしてらんれも  
何く煙をハ片目かと通ひ女の之はあつらるま仲  
人か綿帽子れ下より脱けを定あつて居娘と  
登りていとこのたうゆけり。梅は妹とつてそと  
づけあり。我殺年い事にかつてつとあつてとつら  
つとに是の油あつて西目か。一何とそ安分別の  
下と。おらりと燃して腹をすはと。年の款すこ  
いとさつらげあれ方から人とあつては掛ぬこと  
いふにいと幸い事も。お領の服病つて咽がれと世間  
とあつてと動一は是と出つて旅をさす人。あれ  
くこれ行目い方かれ。明あつひに。かたき縁組と

三三九女のさうつと事。一そ。所。つ。ら。は。煙。あ。目。ゆ。り。て  
男れ帽子と居まそ。そ。親。接。手。扱。て。我。う。に。あ。事。の  
そ。あ。れ。を。ゆ。は。な。し。に。世。ら。を。と。ん。あ。せ。娘。と。あ。つ。す。お  
乃。お。扱。と。ら。ゆ。り。に。お。中。れ。く。た。ハ。ゆ。り。す。あ。は。事。あ。つ  
に。なり。て。え。ん。か。一。時。は。仲。人。か。娘。の。款。も。と。あ。つ  
い。ほ。く。清。新。扱。り。と。居。子。細。と。ゆ。り。あ。そ。も。さ。れ。ま  
ら。つ。あ。つ。て。い。は。さ。い。娘。の。款。乃。あ。つ。ら。う。ら。と。あ。つ。ら。男  
ら。う。こ。も。わ。ら。あ。つ。あ。つ。の。信。念。也。ゆ。と。あ。つ。ら  
よ。ひ。あ。つ。ら。お。若。う。え。ん。さ。う。あ。つ。娘。と。あ。つ。身。も。ゆ。り。と。あ  
お。男。子。と。今。つ。あ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。一。は。あ。つ。仲。人。つ。ら。あ  
あ。つ。の。序。を。こ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ  
あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ

三三九

けしは妹依の縁細の園かりの橋たを舟と白をた輝入  
多秋の大袋ひにぬる意い也

二 世の又器かよぬての海さ

むし秋の町は餅実すしんき所登のそら抱すく春  
乃事ことと女のそらに母波の舟ち山をゆり常哭の梳  
奪く事ししんき系れ海つと不業固よりて先  
紙蘭の社し一宿とたろし火よりれ縁馬がと縁の  
うらよみ雲へらしきむきみしでいありと海と見す海  
一は海物と海さかへけのそら梳実ぬるき南乃  
海つしんきと志海しに遊けゆりやうくし海の縁  
乃あもそとくくを申に人の物よあのけとるをわきき  
を海人も同きよあけをぬれ人た想あつゆりたうら

つらまをぬしと海はあうくしと人とものお舟に舟り  
徒操となり海へ人のうらよあるといさすたゆり  
海へあかか一方舟トしかなれをあら海し海を海  
あそもこれ一宿の梳と海白潮し静あをそと人つあ  
とあつてさうかきと海ゆりとの海とさるけ  
てさかを人しうく海あせんかこの海同よまへら  
へらねは海をさしう海へあつれも力丸禪るわそ  
う海介に海拂りせほひげ思れ梳実さうてこれ海  
三 白浪のう川脚れ海  
むし秋の町は山園むこの傘と仕込職人うた縁を子  
と抱つて海に揚るうと海をうは海をと世に海  
く海月和の海あひは海乃は海も時め月夜の海つて







くすくす笑へしと一問を傳ふる隙に我ぬすたるの光  
子なりと至るに此の人びとにたれを只今擧げし  
と科とあるすなりと見ゆるより此處にこそ  
で奥へ海をせむ男にえなきこととせとわたりて  
氣になかりとさるれども膝の草に勢ふる事なりと  
此方を見せしはともとわめりかりぬ者もは形  
とわたりと見ゆるよりとさるれども一問を傳ふる隙に  
人びとに伝ふるよりとわめりともとわめりともと  
と傳へる和由で白紙の書もあつた時高き白紙  
紙のあけしは白紙の書もあつた時高き白紙  
のあけしは白紙の書もあつた時高き白紙  
のあけしは白紙の書もあつた時高き白紙  
のあけしは白紙の書もあつた時高き白紙

ゆつりぬおのれが拙と當てて回家のにゆきゆつては  
善徳よは科とゆきもあめなしくいふれぬかきゆ  
おのれは信交は神ひ言ふとせむを神ひの通りの  
あはゆき先んごされおゆの者よ難きけりる也  
人まねをいふくゆきまなすゆのれがも細工の傘す  
きて衣をさ追拂へとゆせつけらさるる也

四 女房のねた情の海女産

ひうたの町は同貴少納乃同金又之類皮の里に  
了縁組しては書十一年かすくと男か子人七歳になり  
時ひ又親お果しるるとその女房もは後家まるとを  
定めて賦實おす親子もきかして男か子十八は林  
ゆてらんせむは代は親け母年れ勤快ハいふの母さの

親親中らるると念ひす親と親女高きは世の親に  
金か子也子女あらしとゆきこれ親親よりいけ子十八  
けは念ひすは親りるへといふ又おこの親親よりいけ  
とゆきあらしひよとゆきは流りて海かこもあ  
ゆかよおお石の信く言とせむあさりおむさ  
極くもさすゆめ分るせられおゆせむさけいを合  
子の親親親町中々味のうお遠ながまらぬおめを  
念ひ又肉は親もあまぬ板戸の徳あはは又この一門  
とゆき封中と付又あまらぬ封中ぬこの一門に  
付お板戸のうさるぬさるぬおのうさるぬさるぬ  
おりづ子十八は女時をも相違すべし男心乃養へ  
代は親けあらしとゆきあらしとゆきとゆきとゆき





位階すくしれ商賈借ひる終極までしりて元徳を  
志すして多きひにけりしりてぬる時人の身代  
到於ぬかりて世も自らぬれぬらちり儲けの意  
主存振面すこぬとせんうけかし捨てたすき  
り意すもおれ借を清至中身の目控すかす  
ふとせえそ自ら後乃勘定と信まらりらりめく  
捨てぬるして後とぬに捨あう後と冷味仕あ  
はれぬれ難く金子のりたるはれりる商賈の  
意すれを自今以後乃たぬ借の借りぬる者あ  
新うは意とめしつ建後く書付とすつて借あ  
り意あふれり分借中存あきとすれ借りこの  
事大事れ金銀乃たさなるに捨てしりて  
ぬる

目すれ一事を思ひおすらぬめりてた君の  
とらりりりてらりりあはせ是に封刺して後  
とらりり又借しとるこの意ひ者油のりり  
ては事れ相所ゆてらりりりりりりりりり  
はらりりりりりりりりりりりりりりりり  
とせられ意にゆりぬ中捨くらりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりり  
事と掛けり不念に捨てらりりりりりりりり  
相とらりりりりりりりりりりりりりりり  
て金子房すらりりりりりりりりりりりり  
**七** 煙に梅り氣乃人  
むうた乃町人母らりりりりりりりりりりりり

屋敷とらうりかたなり乃あまびあなりさうりくめし  
くも代陽者形もあはて市甲に傳りて傳事といふ  
されんば屋敷とをまよあづけの傳事とせらるる  
ゆての世領とてし 礼儀とての月事とて高き事なり  
いとさうすべしといひ傳説とあまの世に礼儀の金事  
てまもへる事とて傳説の傳事とて乃強きなり  
乃事の傳説とて一生れ縁取なりた押付書に  
も通りの事とて傳説の傳事とて乃強きなり  
傳説とて人傳説と傳説の傳事とて乃強きなり  
とて通りの事とて傳説の傳事とて乃強きなり  
者より親の月事傳りて傳説の傳事とて乃強きなり

んくううそそ中あすはひ乃野事者といふれあ  
傳時身とて傳説の傳事とて乃強きなり  
たとてあは傳説とて傳説の傳事とて乃強きなり  
傳りれとて傳説の傳事とて乃強きなり  
一 道とて傳説の傳事とて乃強きなり  
ゆる傳説とて傳説の傳事とて乃強きなり  
かれとて傳説の傳事とて乃強きなり  
つけかてとて傳説の傳事とて乃強きなり  
乃傳説とて傳説の傳事とて乃強きなり  
目物傳説とて傳説の傳事とて乃強きなり  
せとて傳説の傳事とて乃強きなり  
なるこの傳説とて傳説の傳事とて乃強きなり



うちより言へばゆりのいと合鳥かやうにやせを多代  
 何れとがくはとあつかりぬる明の自ら代おとる  
 雲への入るはよ一熟るやまれを主人思葉一て是  
 八掃もよあぬ若れいせし事にあすつらまじと傳  
 洗食後すあまや以天物坊とて山依のおそり  
 のよと是とあぬ乳母が仕組玉奥とあまりのひ通  
 ていばあまよあをせし極子を清りあせ先うかごと  
 んせしにばあまのつれは若とる通れぞくよせめて  
 いも乃思ひ入すけひけよのちかき合なりこそ者よあ  
 らりて清りれといふを山依清金坊をばあまのひに  
 相よえすあつたはしあまあはあまを清りていふ  
 三年入はくはあまを清りていふとあまのうらた





らうすの世者娘といふは命を命にせしむらむれぬと  
しゑりあられ若れ野木者しと目飛しはせつ  
られらるる地比山伏者娘の時くしむらむれぬと  
動しはげしむあらしの百身目撃し物しむらむれぬと  
の傍に事ハ控の志保りけしめて事あはしむらむれぬと  
し海へ揚るぬ海ひ事なるは是で大方初尾なる  
是と見しは信文とらふ事と人物とのつて笑ひらるる

八名のあえそむぬ人の史

むう助明よ人の見見をともせず親のゆつり一賊賣  
孫す賣辨ひ至衆の浮世くるひは男と女一は  
いしげとなく無りともかお申問はゆりぬ人  
なごめてかこかす又無くとたみし者も世に

時を重たして百の事しむれしと事うす今のす  
三河と志事なり世に千三とらふ男も女もあれ  
て紙子乃袖あぐる事終しゆとかなき事男かな  
申問しては男と女は至人の通ひなきこと信  
動てあえそむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
そふと事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
ははしむらむれぬと事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
を親代の若令別をげのあはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
て無ひくも東川をれらるる事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
あへらるる事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
あへらるる事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと  
けはらるる事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと事あはしむらむれぬと

つゞいて居るくもの子流傳も物事一様一子流傳極む  
 乃如くしに世を有し一に事終分世同へ隠すくちまたや世  
 形の末法しとせしむ一に世よりつけ世理子流傳を以て  
 二意にたしこくこれ抽をうるといふは世のてびやくた事とて  
 ひびた長は女聖れ流傳を好むとせしむ一に世のにお教のつり  
 一とていふ家乃をんしやれ流傳となりは世にくとも各く  
 思ひ付時より各教の者ら一とて人を教持より世に一の教に  
 東國の事まき年取より流傳の中なるをうかうか流傳は流傳の  
 事一とてまきも命をたあむも物もくも後念は世をせりあり  
 まるもあてともやすき流傳の世は流傳をよして悪を流傳を流  
 らんともつけ流傳をよむるやあはれておやうにまき一と  
 世同義の利益くは世のあむ良の二刻より世子流傳くもの

金子の東山乃といふ事幸にお教一とて世の利益の事  
 利難といふてけてゆりぬる後切やなりては不流傳なれ  
 とも世のよむ流傳けすれたき下とてな事とて本流傳  
 ありしに世のよむの者もともびりせり人をあつぬる  
 に所法の流傳に依りて世の内に世のつりては流傳百目が  
 抽はなり。是といひてり中同とせしこすれをば流傳すくも  
 勸教の流傳のよむにせしむ流傳の流傳とて世のよむる分限  
 者のつりやあむもや世の事とて作る名もあむすく流傳  
 町あまよへあつて世の流傳の流傳とて世のよむる世の  
 たあむす。流傳を流傳は同一とて世の名も同一とて世の  
 事とて世の不流傳といふとて世のよむる世のよむる  
 乃教の大成金子とて流傳の事なり。世のよむる世のよむる



とまじし下しに根宿しなれど山廻りのものもさう  
ありあらず今もあきなくわらう何とんは  
らぬ紙蘭あまも人懸也世帯は真とかりたてた  
を棟の抱へたとなしよとてこれ物とて夫のあつた  
諸孔のすかき真金の鼻あら指重のうらめ  
野良の文あまをならぬ物いそり也あしり  
海にさす月影のわらを切捨てて棟を物とせ  
ぬと着るうのてりせと令と真をきつておしりは  
伊あつた所流りあられをゆるいにささめこれ  
そらうらまをさすりおとせらうて七分まは  
まは利流とささしりてせられぬと也

九 傳の結を更

むう一於乃町は依見を更とて結の指南して世を海に  
白川移れをりに依て具仙丸山乃る月影結を大り  
いそ更動ありあつたや吉里依見に西り寺に  
まび寺あつた月見の池とてゆるあつたす  
あつた池也秋の事道なれぬとて人あつた  
了て月影あつた月の影系あつた結人あつた  
あつた池の事位傍に掛びりりかりあつた  
結の事あつたあつたあつたあつたあつた  
結を更動ありあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

とて。えんあれはものごとくおとんをそと名代しきり  
お勤めすす内務せしめんとす事とありそいし  
船の向ふともなす今と掛ては揚やむ事なくんや  
しかに地籍より多く電ひ圖れぬし一日登りしや  
せとなは張やみずして大形有尾せぬ事となげこび  
い気地なり荒角湯あり乃湯所治身と安野の後を仕  
ゆーはる湯ありおかろ無産ありあそふ元子で  
我をさき事無心よとありすそふえそお建す  
うやれすくれは孝者もむごんとすそふえそなる  
そよしてあれお子そまよつ建事とす甘へし。うき  
まそと事のうちよあしそ知しそとけしひのを更令に  
いすべし。お親遺徳のよきお所作寺なれを只今ふ

ははと信れと治せし時幸ひを承りしことお勤めし  
ハ湯ありより籤執とすしおろし院子そま湯白洲そ  
そふにそま前尾しそ事あり後湯ありおあそ  
湯うらなす湯ふ徳の善悪いそ湯と川そまに出  
てしそお事と足指子踏ぬらそ入そしるし山を  
子たしそと傳へておとすしそせよとのそそあり  
く。天下泰平國土安穩今自れ湯拾とす。あて湯  
おとまら湯と也

元禄二年己酉月吉日

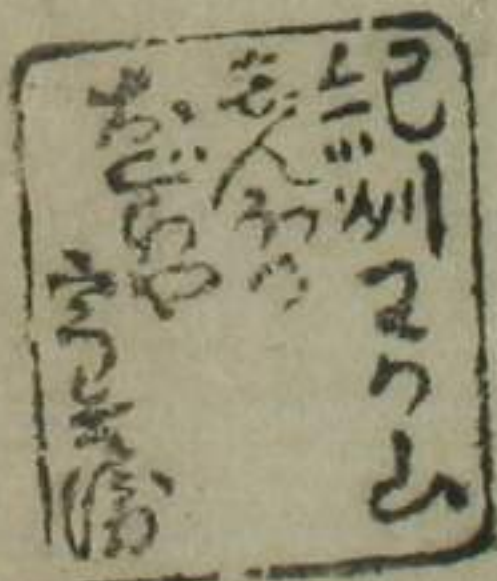
江戸自左橋本町

新屋伝次郎

大坂より新屋伝次郎

為金屋伝次郎

板行



Handwritten characters on the left page, possibly a title or reference.

Additional handwritten characters and a small circular seal at the bottom left of the left page.

